

## 追加関連論文

- 1 Karrow NA, Guo TL, McCay JA, Johnson GW, Brown RD, Musgrove DL, Germolec DR, Luebke RW, White KL Jr. Evaluation of the immunomodulatory effects of the disinfection by-product, sodium chlorite, in female B6C3F1 mice: a drinking water study. *Drug Chem. Toxicol.* (2001) **24**: 239-258.

飲料水に亜塩素酸ナトリウムを添加 (0.1 ~ 30mg/L) し、B6C3F1 マウスに 28 日間投与。30mg/L の亜塩素酸ナトリウム投与群でのみ脾臓の CD8<sup>+</sup>細胞の総数が増加。

0.1 ~ 30mg/L の亜塩素酸ナトリウムのマウスに対する免疫毒性は少ないことを示唆する結果であった。

- 2 Yonkos LT, Fisher DJ, Wright DA, Kane AS. Pathology of fathead minnows (*Pimephales promelas*) exposed to chlorine dioxide and chlorite. *Mar. Environ. Res.* (2000) **50**: 267-271.

魚類に対する二酸化塩素と亜塩素酸塩の毒性を比較。二酸化塩素の方が魚類に対する毒性が高い。

- 3 Gill MW, Swanson MS, Murphy SR, Bailey GP. Two-generation reproduction and developmental neurotoxicity study with sodium chlorite in the rat. *J. Appl. Toxicol.* (2000) **20**: 291-303.

SD ラットに対し、0、35、70 及び 300ppm (雄: 0、4、8 及び 30mg/kg/day、雌: 0、5、10 及び 39mg/kg/day に相当) の亜塩素酸ナトリウムを含む飲料水による二世世代繁殖毒性試験。全群で飲水量が減少し、70 及び 300ppm 群で摂餌量及び体重が減少した。繁殖毒性の証拠は得られていない。300ppm 群で仔体重が減少し、性成熟が少し遅延した。300ppm 群で軽い貧血及びメトヘモグロビン血症が観察された。甲状腺ホルモンレベルは影響を受けていない。神経系の変化は限定的で、70 及び 300ppm 群の出生後 25 日で聴覚驚愕振幅が少し低下し、300ppm 群の出生後 11 日で絶対脳重量が少し減少したが、これらは、疑問のある神経毒性所見である。繁殖及び甲状腺ホルモンへの作用から NOEL は 300ppm。血液毒性及び神経毒性から NOAEL はそれぞれ 70 及び 300ppm (雄: 8 及び 30mg/kg/day、雌: 10 及び 39mg/kg/day に相当)。